

デイトレーニングセンター・エーブルヘーブン

お話：部長 ベンテ・グアンセン

報告者：水垣 トモ子



★高齢者も地域も職員も一緒

エーブルヘーブンは複合施設になっていて、デイサービスの他に、在宅ケアの事務所や、看護師が常駐する医療センターにもなっています。ドクターはいないが、近所の方で通所できる方は、包帯を交換するなどの簡単な治療を受けることができ、また、PT（理学療法士）も在申しているので、ロスキレ市の判定ができれば、理学療法の治療も受けることもできます。もちろん、職員も腰痛など身体的に苦痛があれば、保険ドクターに受診し理学療法の治療が受けられます。

★行き届いたサービス

デンマークでは、在宅サービスを受けたい人は、自治体に申し込むと判定員が自宅に来て、本人の希望を交えながら、どのくらいのサービスが受けられるか判定されます。お話をいただいた、ベンテ・グアンセンさんはサービスがきちんと受けられているかチェックもしています。現在では、ロスキレ市から委託された、民間の在宅ケアもあり、利用する方が選ぶことができるため、公共と競争してより良いサービスが提供できています。

★エーブルヘーブンのシステム

エーブルヘーブンでは、利用者は 480 人いてサービス内容はそれぞれ異なっています。2週間に1度掃除のサービスだったり、1週間に40時間のサービスを受けたりと様々です。在宅サービスが始まった30年前は朝8時～夜20時のサービスだったが、今では24時間対応のサービスを行っています。自宅で亡くなりたいと思っているデンマークの人は70%いて、1時間ごとに訪問する



ことで在宅のターミナルケアも行えています。

480人の利用者に対し、30名のヘルパー、社会保険アシスタント7名、看護師8名を3つのグループにわけて訪問しています。サービス内容は、オムツ交換、靴下をはかせてあげる、補聴器をつけてあげるなど短時間で終わるサービスもあり、余った時間を他の方にまわせるようなシステムになっています。在宅の職員は、それぞれ携帯を所持し、その携帯で1日のスケジュール、個人のホームドクターの連絡先、服用している薬のリストなど、様々な情報が入っているため、エーブルヘーブンまで戻らなくても、十分な仕事ができるシステムになっています。

★それでも課題はある

今までは入院すると、医療的処置がすべて終わってからの退院だったが、今では 3、4 日で退院してきます。在宅で完治していない人を診るということは、再入院ということも考えられるため、スタッフにはより高いサービスが提供できるよう求められています。今後、在宅のスタッフの教育をどうしていくか課題に直面しています。

★得意、好きな事ができるって素晴らしい

デイサービスでは、ほとんどの方が自分の好きな事、得意なことができます。作った物は販売していて、売り上げは材料費になるそうです。まず道具の整っている木工室。電動のこぎりなど、扱いが難しい物があったのには、日本では考えられないのでとてもびっくりしました。男性の中に混ざり女性の高齢者もいて、おもちゃ、ミニベットなど作っていました。手招きをされ、近くで作品をみせていただき私は、ペーパーホルダーを購入させていただきました。広いリビングでは、白い布にペインティングしていたり、刺繍をしたり、3Dのような絵が飛び出るクリスマスカードを作っていたり、得意、好きな事をしていました。そのせいか、自助具を付けながらの作業のかたもいましたが、表情をみても、皆笑顔で、充実している様子でした。



★エーベルヘーブンを訪問して

まず、在宅サービスや、デイサービスどちらをとっても設備やシステムが整っているのにびっくりしました。課題はあるとの話ですが、職員に対しての配慮も感じられるので、「国民は国に守られている」という考えにつながっていることもわかりました。デイサービスでは、高齢者と手をつなぎ触れ合うことができたことは、今でもデンマークで1番の思い出となっています。

モモとサクラのここにご会話

「デイサービス」

もも：すごく年を取ったおじいさんやおばあさんが、一生懸命手作りでインテリアやおもちゃを作っていてすごいと思った。アイデア満載な感じだったね。すごくかわいくて本物みたいに羽が動く、赤いオウムのモビールをお土産に買った。

さくら：私も白鳥のモビールを買ったよ。本当に羽の動きがリアルだよ。作業用の道具もたくさんあって驚いたね。手作りっていいね。

もも：そうだね。年をとってからみんなに喜ばれるものが作れるって素敵なことだね。おじいちゃんやおばあちゃんもイキイキしていたよ。きっと、私達子供の喜ぶ顔を思いながら作っているんだね。

